

経営課題に専門家の支援を！ ミラサポ / よろず支援拠点

Q. 「ミラサポ」とは？ どんな支援をしてくれるの？

A. 中小企業庁が運営する中小企業・小規模事業者の支援を行う支援機関や専門家の情報サイト。さまざまな経営者や専門家との情報交換や、専門家の派遣を要請することができます。

ミラサポのメリット

- ① 補助金など支援施策を検索できる!! (施策マップ)
- ② 各種補助金の電子申請がサイト内から簡単にできる!!
- ③ 専門家の派遣が受けられる!! (年3回)



webサイトを
チェック!!
ミラサポ 検索

Q. 「よろず支援拠点」とは？ どこにあるの？

A. 国が全国に設置する経営相談所。中小企業・小規模事業者のさまざまな経営課題に対応します。

- 愛知県よろず支援拠点：名古屋市中村区名駅4-4-38 ウィンクあいち14階
- 〃 豊橋サテライト：豊橋市駅前大通2-33-1 開発ビル4階

よろず支援拠点のメリット

- ① 総合・先進支援：課題の分析や解決策の提示、フォローアップまで実施!!
例：売上拡大、経営改善、現場改善（生産性向上）など
- ② 専門家チーム支援：課題に応じた適切な支援チームを編成します!
- ③ ワンストップ支援：相談内容に応じて、適切な支援者を紹介!



まずは予約!
各分野の専門家
をご紹介します。

お問合せ

- ミラサポ TEL：0570-057-222
- 愛知県よろず支援拠点 TEL：052-715-3188



相談者の声 「専門家相談、思ったよりよかった」 40代 運送業

■ 相談のきっかけ

息子への事業承継も含め、経営や取引先との関係について不安がありました。経営全般の知識に疎かったこともあり、どこに相談して良いかわからず、とりあえず商工会議所に電話してみました。

■ 課題整理

商工会議所にて経営についての不安を相談したところ、販路拡大PR、事業承継、財務改善、などさまざまな経営課題がみえてきました。

■ 解決策の提案と実施

とはいうものの、課題解決のためにあまりコストはかけられない!ということで、商工会議所の経営指導員と「よろず支援拠点」の専門家相談を活用しました。

これをきっかけに「よろず支援拠点の専門家相談」「ミラサポ専門家派遣」「小規模事業者持続化補助金」など商工会議所のサポートをフル活用し、取引先も増え経営基盤の拡充を図ることができました。

■ 支援実施内容

平成26年6月～継続中(経営力強化)

- よろず支援拠点の専門家による経営相談

平成27年(事業所PR強化)

- よろず支援拠点のIT専門家とホームページ作成サポート
- ミラサポ専門家派遣によるホームページデザインサポート

平成27年(事業環境改善)

- 小規模事業者持続化補助金活用による事務所改築

平成28年(販路拡大)

- ミラサポ専門家派遣による運送業に特化した経営アドバイス

あの夏の日のクワガタとトンボ



今年から新たに加わった国民の祝日「山の日(8月11日)」。「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する日。」という趣旨とのこと。「山の日」の制定で、国民の祝日は年間で16日間となり、祝日のない月は6月のみとなりました。学生からすると、夏休み期間中の「山の日」はあまりありがたくないかも。それよりも6月に早く祝日を制定して欲しいものです。6月といえば梅雨。「雨の日」なんていかが。生命に不可欠な水をもたらず「雨」。何かと嫌われがち「雨」ですが、たまには感謝してみてもいいのではないのでしょうか。

夏、真つ盛り。皆さん、子どもの頃の夏休みの思い出と言えは...? ラジオ体操、虫取り、海水浴。縁側でスイカ、花火にビー玉ラムネ、はたまた肝試し...。そんな古き良き昭和のワンシーンを思い浮かべながら、今月は虫取り少年たちのお宝、昆虫のお話です。かつて虫取りキング(自称)であった私は、小学生の息子を連れて家の裏山にカブトムシやクワガタを、近くの水田にギンヤンマや赤トンボを捕まえに虫取り網と虫カゴを持って夏の間に中出かけたものです。クワ

ガタなんてお手のもの、カゴいっぱい捕まえて、近所の子どもたちからまさにヒーロー呼ばわり、日本一のカッコいいお父さんでした...。月日は流れ孫と遊ぶようになった今、カッコいいおじいちゃんを目指し再び裏山へ水田へ出かけたものの、冗談じゃない、クワガタやギンヤンマが一匹もない。それどころか涼しげなミンミンゼミの声は消え去り、代わりに聞こえてくるのは、家の周辺に昔いなかったクマゼミの声ばかり。シエシエ...と中国語に聞こえるのは私だけ? クマゼミは近年の温暖化により、生息地が北上しているとのこと。ここ豊田市内でも生態系の変化を身をもって感じる今日この頃です。

そんなこんなで、激減した赤トンボが再び空を舞うようにと、環境にやさしく安全安心なお米を作る取り組みが、今豊田市内で始まっています。これは、JAあいち豊田が進めているもので、化学肥料や農薬を減らし、トンボに優しい環境の保全に配慮して作った米を豊田市の代表的なブランド米として、「赤とんぼ米」の名で今年の秋に販売を開始するそうです。トンボが減ったなあと落



豊田商工会議所 専務理事

土居 友二

大阪府出身。昭和49年トヨタ自動車工業株式会社入社。
さあ、大好物の鰻で夏を乗り切ろう!
冷えたビールをグイッ、プハー!

胆していた私にはまさに宝くじが高額当選した思い。ぜひとも、美味しい米を食べて豊田市の農業と赤トンボを応援して、自然豊かなまちづくりを少しでもお役に立てればと思います。

私たちが子どものころ当たり前だった自然が、生活が豊かになるにつれてどんどん変化しています。ここ豊田市内においても例外ではありません。日本人にとつての懐かしい景色、どこか心が和む雰囲気、そういった自然があり続けてほしい、また、将来を担う子どもたちの心に残るふるさとであり続けてほしい、と切に願うばかりです。

昔 うさぎ追いかの山々
今 ポケモン追いかの山々